

令和4年度 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要

はじめに

平素は本校教育活動にご理解、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、本年度4月19日に3年生を対象とした「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月26日に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、数学・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図って参ります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にして頂きますようお願い致します。

令和4年10月
(2022年)

1 教科に関する調査結果の分析

国語

(1) 調査の概要

本校正答率は概ね大阪府平均値を上回り、全国平均値と同等でした。



(2) 学習指導要領の各領域等における成果と課題

【話すこと・聞くこと】

「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題」や、「論理の展開などに注意して聞く問題」、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題」など、すべてよくできていました。

【書くこと】

「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題」に課題があり、無解答率も全国値を上回りました。

【読むこと】

「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえる問題」、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題」に課題がありました。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

「表現の技法について理解する問題」は多くの生徒ができていた一方で、「行書の特徴を理解する問題」には課題がありました。

(3) 今後の改善点について

【話すこと・聞くこと】

主体的で対話的な深い学びが推し進められる中、本校ではペア活動や班学習を積極的に取り入れ、話し合い活動を中心に授業展開を行ってきました。その成果として、「話すこと・聞くこと」のすべての問題で高い正答率が出たと考えられます。

今後はただ単に話し合いをするのではなく、「答えのない課題」や、さまざまな意見を聞くことで深まりを持つような、「複数で交流することこそ価値のある課題」などを設定し、生徒たちの主体的に学習に向かう態度を育成していきたいと考えています。

【書くこと】

新聞の購読機会は減少する傾向にあり、Web上では自分が好きなものを選んで読むため、より読みやすく、わかりやすい、インパクトのある文章にしか目を通さないという現状が一般的には指摘されています。そのため、論説文、説明文を読む機会が減少してきています。本校では、朝読書の時間を設け、少しでも文章を読む機会を増やしていますが、多くは小説や物語の文章に對峙しているのが現状です。モデルとする文章の数が少なければ、論理的な文章を書くことは困難になります。今回の無解答率の多

さからも、書くことへ苦手意識を持つ生徒が多いことがうかがえます。

今後は授業を中心に、文章を書く機会を増やすだけでなく、事実と意見、主観と客観、具体と抽象など、思考を整理して論理的な文章を書く力を養っていかうと思ひます。

【読むこと】

物語文の読解に課題があったことを踏まえ、登場人物の心情を描写をもとに考える力を育成していく必要があります。一方で、前述したとおり、論説文や説明文などについては、この種の文章を読む機会が少なく、筆者の見方、考え方を捉えることに難しさを感じている生徒が多いので、論説文・説明文を読む機会を増やしていきます。

また、読むことの範囲においても、記述問題への無解答率が目立ちました。前述したとおり、書くことの力を伸ばすことで苦手意識を克服していきます。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

今年度はこの項目に関する正答率が高かったです。本校では自主学習ノートや日々の授業での継続的な漢字学習などが実を結んでいるものと捉えています。

「文脈に即して漢字を正しく書く問題」や「事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題」、「表現の技法について理解する問題」などは、知識として定着していなければ正解できない問題です。日々、生徒が家庭学習や、授業に真摯に取り組んでいる結果です。この力を継続していくため、日々の学習と、授業規律の徹底を指導してまいります。



数 学

(1) 調査の概要

本校正答率は、一部全国および大阪府平均値を上回るものもありましたが、概ね全国および大阪府平均値よりやや低い結果でした。

(2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

【数と式】

「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし説明する問題」は全国値をやや上回りました。一方「自然数を素数の積で表す問題」「簡単な連立二元一次方程式の問題」、「問題場面における考察の対象を明確に捉える問題」「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題」は全国値を下回りました。

【図形】

「反例の意味を理解している」「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題」は全国値をやや上回りました。一方「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」は全国値を下回りました。

【関数】

「一次関数の変化の割合の意味を理解している」「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題」は全国値をやや上回りました。一方「一次関数の変化の割合の意味を理解している」は全国値を下回りました。

【データの活用】

「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している」は全国値をやや上回りました。一方「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題」「箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題」は全国値を下回りました。

(3) 今後の改善点について

【数と式】

問題場面における考察の対象を明確に捉えられるようにするために、予想した事柄が成り立つことの説明を振り返り、文字を用いた式と具体的な数を用いた式とを相互に関連付けながら、文字を用いた式がどのような事柄を表しているかを理解できるような活動を充実させていきます。また、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明できるようにするために、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるような活動を取り入れていきたいと思ひます。

【図形】

証明を読むことを通して、結論を示すために仮定や図形の性質がどのように用いられているかを確認する場面を設定し、証明の根拠となる性質等を指摘できるような活動を取り入れていきたいと思いをします。

【関数】

一次関数の変化の割合の意味を理解するために、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べる活動を取り入れていきます。

【データの活用】

データの分布からその傾向を読み取り分析できるようにするため、様々な集団やデータに着目し、比較をするなどの活動を多く取り入れ、判断の理由等を、数学的な表現を用いて的確に説明する機会を増やしたいと思いをします。

また、四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解できるような活動を取り入れていきます。

理科

(1) 調査の概要

本校正答率は、大阪府平均値よりは上回りましたが、全国平均値を下回る結果でした。

(2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

【物理的領域】

全国値とほぼ同じでした。「静電気」に関する問題については、できていましたが「ばねとおもりの関係」に関する問題には課題がありました。

【化学的領域】

全国値を少し下回りました。「分子モデルや吸湿発熱繊維」に関する問題についてはできていましたが、「水素燃料」に関する問題については課題がありました。

【生物的領域】

全国値を下回りました。「脊椎動物の骨格」に関する問題についてはできていましたが、「ダイオウグソクムシやアリなどの節足動物」についての記述式問題については課題がありました。

【地学的領域】

全国値をやや下回りました。「気圧・気温・湿度のグラフや火成岩・化石」に関する問題についてはできていましたが、「気圧と天気図、気象観測データ、地層の傾き」に関する問題については課題がありました。

(3) 今後の改善点について

- * 理科公式や用語をしっかりと覚え、計算や科学的な考え方をを使って問題を解く方法を身に着けるような学習を進めていきたいと思いをします。
- * 学習した知識・技能を活用して、自然の事物や現象、実験・観察結果などについて理解し説明できるようにしていきたいと思いをします。
- * 観察・実験の結果を分析して理解し、結果を予想したり仮説を立てたりして、学習した知識・技能と関連付ける観点を育てたいと思いをします。

【指導改善のポイント】

- * 理科学用語や科学的概念を理解し活用できるように、現象や実験・観察結果等と関連づけて説明するような表現活動を多く取り入れます。
- * 実験結果をグラフや図などで可視化し、事象の本質をしっかりと読み取らせませす。
- * 実験・観察を重視し、生徒自らが実体験を通じて興味・関心を持ち、探求する姿勢を育てませす。



2 生活習慣や学習環境などに関する調査の傾向 ～生徒質問紙からの分析～

【生活習慣】

朝食を毎日食べている生徒の割合は、全国値を下回りました。また、毎日、同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合は全国値を上回りましたが、同じくらいの時刻に起きている生徒の割合は、ほぼ全国値と同じでした。

睡眠時間の確保や、ゆとりのある生活習慣づくりをご家庭で進めていただいていることと思います。規則正しい生活のリズムを作ることが学習にもつながります。今後ともよろしくお願い致します。

【自己肯定感・自尊感情】

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を下回りました。しかし「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を上回りました。

やや自分に自信が持てない中でも、決めたことには強い意志を持ち、周りの人たちと協力をしたり意見交換しながらチャレンジしていく中学生の姿が表れているようです。

今後も日々の活動や各種行事等を通じて、周りの仲間や自分の良さを発見できる機会が少しでも増えるよう取り組んでいきたいと思っております。

【家庭学習】

学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜日）1日当たり1時間以上学習する生徒の割合は、全国値を下回り、全く勉強しない生徒の割合は、全国値を大きく上回りました。

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合も、全国値を下回りました。

授業で学習した内容は、家庭で復習することで定着します。家庭学習は習慣です。歯磨きやお風呂、朝ごはんなどと同様、毎日の生活の中に組み込んでいくことが必要です。

学校でも、家庭学習の習慣づけのために自学ノートの取り組みを進めておりますが、ご家庭でもご理解の上、習慣化できるようにご指導願います。

【家庭・地域社会】

「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を下回りました。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合も、全国値を下回りました。

コロナ禍が続く中、地域の行事も中止になったり縮小されたりしていますが、徐々に再開される傾向が見られます。再開された折には、ご家族での積極的な参加やご協力をよろしくお願いいたします。

【ICT機器の活用】

今回の調査では、学校や家庭でのICT機器（PCやタブレット）をどの程度使用しているかについての設問が多くありました。

「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の設問には約90%が肯定的な回答をしていますが、授業中に調べたり発表する場面でICT機器を使用する頻度については週1回～3回程度との回答が最も多くありました。

各教科の授業において、学力向上の一助とするべくICT機器の活用範囲を広めるよう日々研究しておりますが、今後もより効果的な活用法を目指して研修を進めてまいります。

3 おわりに

本調査結果の分析を踏まえ、「各教科での課題に対して有効な手立てを研究し、授業の改善に努めること」「ICT機器をより多くの場面で活用し、学力の向上に役立てられるよう研修を進めること」「家庭での学習習慣がしっかりと定着するよう、課題の工夫やご家庭との連携をより進めること」を三本の柱として日々の教育活動を進めてまいりたいと思っております。

めまぐるしく変化していく時代に対応できる「確かな学力」を身につけることを目指し、これからも様々な点において工夫改善を重ねてまいります。

今後ともご協力賜りますよう、よろしくお願い致します。

